

輝く リケジョ

株式会社日立インダストリアルプロダクツ
電機システム事業部 ドライブシステム本部
電機プロダクト設計部 電動機第一設計グループ

vol.43

成田 悠理さん

2020年、株式会社日立インダストリアルプロダクツに入社した成田悠理さん。学生時代から一貫してめざしてきた環境価値の向上のため、産業用高圧モータの設計に取り組む彼女の魅力に迫る。



Yuumi Narita

「小学校低学年のとき、地球温暖化がこのまま進めば近い将来、地球は滅亡するという内容のテレビ番組を見て衝撃を受けました。その後に環境問題というキーワードを知り、個人として節電やリサイクルに取り組んできました。高校の進路選択の際、持続可能な社会をめざす技術開発をしている研究室を見つけ、その大学に進学しました」。と成田さんは理系に進んだ経緯を笑顔で語る。大学では小規模水力発電用タービンの高効率化に関する研究に取り組んだ。

「大学ではタービンを設計して3Dプリンタで出力し、効率を計測していました。大学院では世界の大都市を対象に、都市の温暖化に関する要因分析をしていました」。機械工学やシミュレーション技術を駆使して研究に励んだのは、地球環境への思いが動機であるという。「自分が作ったものをより良くしていくプロセスが楽しかったことから、ものづくりの会社に入りたいと思いました」。

このことに加え、株式会社日立インダストリアルプロダクツに入社した

理由を「環境問題を解決していくには社会に与えるインパクトが大きい会社がいいと思ったからです」と語る。現在は産業用モータの構造を設計する業務に携わっている。「製鉄所の圧延機や水道局のポンプ、工場の粉碎機などに用いる大きなモータの設計です。今年の3月から、主担当としては初めての設計業務にあたり、そのモータが出来上がって、現在試験をしているところだ」。このモータは、水道局のポンプの動力として活躍する予定だ。

「自分が設計したものが形になることが設計開発の醍醐味だと思います。責任も大きいですが、達成感もひとしおです。環境問題を学んできた

私にとって、産業社会を支えるモータを高効率化し、社会の環境価値向上の役に立てることは何よりのやりがいです」。

最後に、今後の目標について聞いてみた。「まだまだ道のりは長いですが、『成田になら安心して仕事を任せられる』と思われる存在になりたいです。そのためにたくさん勉強し、経験を積んでいきたいと考えています。また、現在担当しているモータで技術の基本をしっかりと身につけた後には、入社前から憧れていた風力発電機などの製品を手掛けられたらと思います。広く多角的な視野を持って仕事ができるようになりたいです」。

上司から ひと言



株式会社日立インダストリアルプロダクツ
電機システム事業部 ドライブシステム本部
電機プロダクト設計部 電動機第一設計グループ
グループリーダー 主任技師
緑川 秀一 さん

自らの視点と思考で、自分なりの答えを見つけ出し表明できる技術者になることを期待しています

当グループとしては久しぶりの新人配属であり、快活な女性であることから設計グループ内が明るい雰囲気になったと感じています。現在は、スキルアップのため製品の取りまとめ担当としての業務に取り組んでいますが、本人なりにいろいろと悩み、模索しながら進めている様子は、ちょっと危なっかしさを感じながらも技術者としての雰囲気が出てきたように思います。技術は、一番の真実です。それを見据え、自分の意見をはっきり言える技術者に成長してくれることを願っています。